



EHIME ROUSAI HOSPITAL KANGOBU NEWS NURSE LETTER

増刊号
Month

11

平成22年度看護研究発表

平成22年9月18日に西島先生をお迎えして看護研究発表が行われました。
これに先駆けて全体研修で「看護研究 はじめの一歩」と題して西島先生のご講演がありました。



～看護研究 はじめの一歩～ 研修に参加して

外来 渡部夏子

看護研究は、看護師なら誰もが経験をするということと、外部講師の講演が身近に聴けると言うことで、多くの方が参加していました。講演では、研究の問題意識とはという点で、「視点によってはどんな事柄も研究に結びつく。日々業務の中で常に疑問を持つことが大切だ」と改めて感じました。また臨床看護研究の道のりマップは、ジャングルで迷ったり、倫理で捕まったり、データの実を収穫など、どんな立派な研究でもみんな同じように苦労するのだと思いました。この研究を今後十分に活かしていきたいと思えます。

OP室

齋藤 加菜

「医師と指導看護師が新人看護師の器械出しに要求する内容の相違」をテーマに研究を行いました。日頃直接聞くことのできない内容を聞き、新人指導だけでなく、ベテランにも要求をつなげていくことができる結果となりました。また、医師は一件の手術毎に正確な手術介助を要求しているのに対して、看護師は段階をおった成長や自立を求めていることが明らかになりました。今後の指導体制に役立てていきたいと思えます。

北6病棟

玉井 道子

ファアラ一位の姿勢保持を検討する～仙骨部の接触圧とずれ力の比較～をテーマに研究を行いました。今回の研究で、綿・ビーズ・ストロー枕それぞれに特徴があることがわかりました。枕別の特徴は、ビーズ枕は接触圧の軽減に適しており、ストロー枕はズレの軽減に適していました。今後は患者の体型や体動にあわせて、適切な枕を選ぶことができるように情報を共有して努力していきたいと思えます。

南4病棟

林 恵美

おむつに頼らない入院生活が過ごせるようにという思いで「患者の意欲とADLを向上するための排尿ケアシートの検討」をテーマに研究を行いました。患者にあわせて排尿指導を行うことで、笑顔や会話も増え退院の受け入れもスムーズになりました。今後も引き続き活用・修正し、排尿ケアに目を向けていきたいと思えます。

北4病棟

永井 明子

「患者の意見を取り入れた手術オリエンテーションの検討」をテーマに研究を行いました。研究を進める中で気付き学習できたことがたくさんありました。研究結果より、腹式単純子宮全摘出術を受ける患者様への手術に対するイメージ作りと看護師の一貫した指導が行えるようにパンフレット作成に取り組んでいます。

H22年度本部研修 伝達研修

看護倫理について

岡野 三恵

私たちの業務は患者様にとって身体的侵襲を与えることも多く、それ故に法律に基づき一定の裁量を設けられています。だからこそ人間として・専門職として倫理に基づいて行動することが大切です。今回倫理について学ぶ機会をいただき、患者様の最も身近にいる専門職者として、たくさんの知識や技術を身につけ、患者様の代弁者となるように関わる必要性を強く感じました。



伝達研修を受講して

H.22.10.14

中本 真由美

一番興味を持ったのは亡くなった患者様に対して当時抱いたジレンマや葛藤を表出し、行ったケアを振り返り今後にかして行くという「デスクンファレンス」です。看護師であれば、後で振り返ったとき、「こうしたらよかった」「こう言ってあげたらよかった」と後悔が多いのもターミナル期です。後悔させない、後悔しない終末期を送っていただけるように院内でも定着すればよいと感じました。

